



南武橋工事順調。絵入り工程表から完成後の様子が見える

河口付近の浚渫工事始まる 掘り上げられた土砂真っ黒



仁川合流点水況が良ければ婚姻色のオイカワがやってくる

旧宝塚ホテル跡地再開発。市民に親しめる景観復活望みたい。



使われなくなった、上ヶ原浄水場 緩速濾過池

2026年完成目標に再整備工事進む上ヶ原浄水場

南武橋架け替え工事は順調に進み、橋の袂に絵入りで新しい橋に切り替わるまでの工程表が掲示され、完成後の姿が目に見えるようになった。大型トラックが行き交う産業道路であるほか、武庫川を挟んでいても兩岸の地域は一つの生活圏になっており、買い物の行き帰りの人の往来が絶えない重要な生活道路で、生活に支障がないか気になっていたが問題なさそう。

川も街も生きものみたいに常に変わり続けるのは世の習い。土砂掘削された仁川合流点一時は平たんな砂州になったのに、何時の間にやら土砂堆積。潜水橋直下から本川への流れも途切れ勝ち。細々とした右岸側の流れで何とか本川とつながっている。流量が比較的安定している川西川からの流れが主要水源に維持されている流れも大量ミスワタが景観を台無しにしてしまう。こんな川でも子供たちは遊びに集まってくるし水況が良ければ魚も戻ってくる。しかしオイカワの写真撮った数日後にはもう魚の姿は全く見られなくなっていた。生きものたちはちょっとした環境の異変も敏感に感じ取ってるみたい。

旧宝塚ホテル跡地再開発が進みもう昔の風景を覚えている人も少なくなったのではないだろうか。人が作ったものも自然が作り上げたものも何れ壊れるのが世の習いと分かっていても一抹の寂しさが募る。人に親しまれる街に生まれ変わって欲しい。

上ヶ原浄水場は千苅ダムと一連の施設で使われなくなった緩速濾過池も近代産業遺産の一施設として残して欲しいものだ。